



吉野ヶ里遺跡 (佐賀県)

弥生時代には、小さな国が各地に生まれました。



前方後円墳 (復元された長野県の森將軍塚古墳)

豪族たちの権力を示すものとして、古墳が築られました。

# 第7回

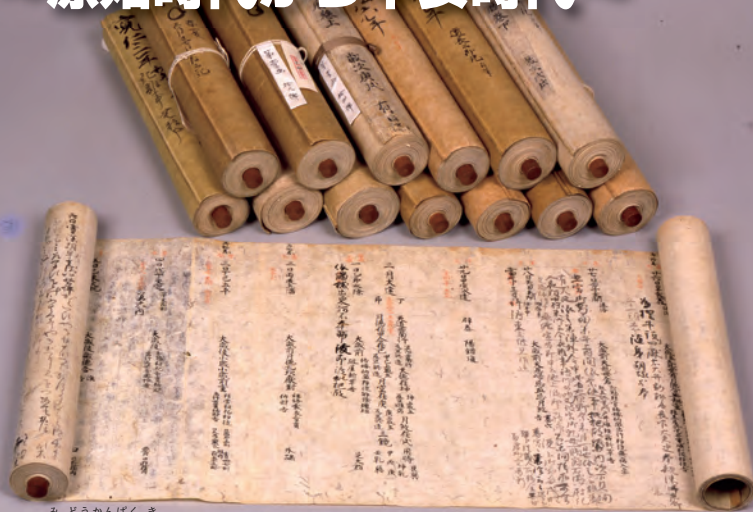
# 政治・外交史(1)



復元された平城京の大極殿 (奈良県)

天皇が位につく儀式などが行われました。

## ～原始時代から平安時代～



『御堂関白記』

摂政や太政大臣の位についた藤原道長の、自筆の日記です。

## 豪族・天皇・貴族の時代

日本の歴史で、小国を治める権力者が登場したのは弥生時代のことです。稲作の広まりによって、指導者や支配者が現れました。邪馬台国の卑弥呼は呪術(まじない)によって国を治めていたといわれています。4世紀ごろには、大王を中心とした豪族たちの連合政権であるヤマト政権が誕生し、国土の統一がすすめられていきました。やがて、中国の唐にならって、律令というきまりにもとづく政治が行われるようになりました。天皇を中心とした中央集権国家が形づくられ、朝廷とよばれる政治の場が整えられたのです。国家の権力によって、人々が支配される時代になったといえます。

しかし、租・調・庸の税や労役・兵役などの重い負担が農民に課される一方、貴族や寺社の私有地(荘園)が広がっていきました。天皇が実権をにぎる政治は長続きせず、平安時代になると、政治権力の中心は、貴族の藤原氏に移っていきました。やがて、武士が登場します。

|    |                  |                   |             |                |             |      |      |      |
|----|------------------|-------------------|-------------|----------------|-------------|------|------|------|
| 日本 | 縄文時代<br>紀元前4世紀ごろ | 弥生時代<br>3世紀半ば～4世紀 | 古墳時代<br>710 | 飛鳥時代<br>710    | 奈良時代<br>794 | 平安時代 |      |      |
|    | 中国               | 漢紀元前202           | 魏220        | 南北朝時代<br>5世紀前半 | 隋589        | 唐618 | 唐907 | 宋979 |
| 朝鮮 |                  | 高句麗               | 百濟          | 新羅             | 676         | 新羅   | 936  | 高麗   |

# 1 旧石器時代・縄文時代……身分の差のないくらし

## (1) 旧石器時代

群馬県の岩宿遺跡から旧石器が発見されたことによって、日本に旧石器時代が存在したことが明らかになりました。人々は簡単なつくりの小屋や洞くつなどに住み、狩りや木の実の採集をしながら移動して生活していました。火は用いられていましたが、土器はつくられていませんでした。

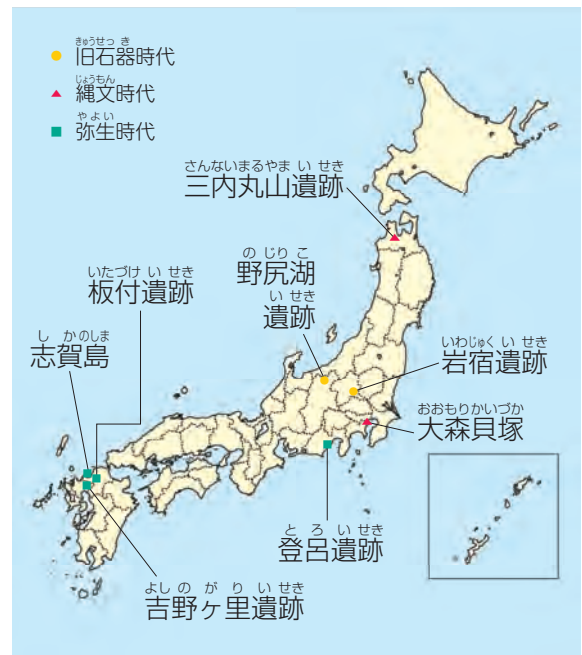
## (2) 縄文時代

- ① 採集生活……人々は、共同で狩りや漁をしたり木の実を採集したりして、竪穴住居で定住生活をしていました。縄文土器の発明によって食べ物の煮炊きができるようになり、食生活が向上しました。一部では植物の栽培も始まり、縄文時代の終わりには九州北部に稲作が伝えられました。

- ② 自然にたよるくらし……当時の人々の食生活やくらしのようすは、貝塚からおしはかることができます。人々は自然をおそれうやまい、まじないによって生きていました。魔よけや安産、豊かな実りを祈るため、土偶がつけられたと考えられています。

- ③ 身分の差のない生活……住居のつくりや大きさ、死者の葬り方に大きな差がないため、このころの社会は、貧富の差や身分の差がほとんどなかったと考えられています。

青森県の三内丸山遺跡をはじめとする各地の遺跡の出土品によって、かなり遠く離れた地域との交易が行われていたことがわかっています。



旧石器時代～弥生時代のおもな遺跡



竪穴住居



## 2 弥生時代……小国の成立と邪馬台国

### (1) 稲作の広まり

弥生時代の中ごろには、稲作は、九州から東北まで広まりました。田げたを使って田植えが行われたと考えられ、稲が実ると、石包丁で稲の穂をつみとりました。収穫した稲は高床倉庫に保管され、うすときねを使って脱穀されました。

弥生時代後半になると、それまでの石と木の農具のほか、鉄製の刃先をつけたくわやすきが使われ始めました。

### (2) 小国の誕生と戦争のはじまり

稲作が本格化すると、たくわえの多い少ないによって、人々の間に貧富や身分の差が広がっていきました。農作業をさしずしたり、豊作を占ったりする指導者もあらわれ、身分の差によって、死者を葬る方法にも差が出てきました。

また、水や土地、貯蔵された米などをめぐって、村どうして戦うようになりました。集団どうして戦う戦争は、こうして始まったものと考えられています。敵の侵入に備えて、村の周囲に濠をめぐらせた環濠集落がつくられるようになりました。

力の強い村は、周囲の村を従えて、小さな国となっていきました。

### (3) 中国の歴史書に書かれた日本

小国の王の中には、中国に使いを送って、勢力を強めようとする者がいました。

- ① 『漢書』地理志……紀元前1世紀、倭（日本）は100あまりの小国に分かれていました。
- ② 『後漢書』東夷伝……1世紀には奴国（福岡市付近）の王が後漢に使いを送り、皇帝から「漢委奴国王」の金印を授かりました。この金印と考えられるものが、江戸時代に志賀島（福岡市）で出土しました。
- ③ 『魏志』倭人伝……3世紀、邪馬台国では、卑弥呼が30あまりの小国を従えて、まじないによる政治を行っていました。239年、卑弥呼は魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印・銅鏡などを授かりました。



復元された弥生時代の水田（静岡県の登呂遺跡）



（高さ約135cm）

復元された日本最大の銅鐸

…邪馬台国は、もとは男子が王であったが、国中で争いが続いた。そこで、国々の王が相談して、一人の女性を王にした。それが卑弥呼である。卑弥呼は、まじないによって人々を従えた。年をとっても結婚せず、弟が政治をたすけた。女王となってからは、卑弥呼に会うことのできる者は少ない。……宮殿や物見やぐら・とりでがつくられ、いつも兵士によって守られている。

『魏志』倭人伝より

### 3 古墳時代・飛鳥時代……大王と豪族の政治

#### (1) 古墳時代のはじまり

3世紀半ばから4世紀にかけて、近畿地方を中心に、前方後円墳とよばれる大きな古墳（大王や豪族の墓）がつけられ始めました。古墳は、ヤマト政権の勢力拡大にともなって、各地でつくられるようになりました。

#### (2) ヤマト政権の国土統一

ヤマト政権は、大和地方（奈良県）を中心とした大王（後の天皇）と豪族たちによる連合政権です。5世紀後半には、九州中部から関東地方にまで勢力を広げました。

#### (3) 朝鮮半島への進出

国土の統一をほぼ終えたヤマト政権は、すすんだ技術や鉄資源を求めて、朝鮮半島南部の伽耶諸国（加羅）との結びつきを強めました。4世紀末には、百済と結んで高句麗と戦いました。高句麗の好太王（広開土王）の碑には、好太王が倭の軍を破ったことが書かれています。

5世紀の倭の王は、五代にわたって中国の南朝に使いを送り、朝鮮半島南部の支配を認めてもらおうとしました。この倭の五王の最後の王は雄略天皇にあたるとされています。また、稲荷山古墳（埼玉県）や江田船山古墳（熊本県）から出土した刀剣に記されたワカタケル大王と同一人物であると考えられています。

#### (4) 渡来人と文化の伝来

大陸との交流が深まるとともに、朝鮮半島・中国から日本に移り住む人（渡来人）が増え、養蚕・機織り・製鉄・土木工事などの技術を伝えました。

百済からは、漢字のほか、5世紀に儒教が、6世紀に仏教が、それぞれ伝えられました。これらは、その後の日本の文化や日本人の考え方に大きな影響をあたえました。

#### (5) 強まる蘇我氏の勢力

6世紀には、ヤマト政権の内部で、豪族どうしの勢力争いがはげしくなりました。有力な豪族の中でも、大王とつながりを持ち、多数の渡来人をかかえていた蘇我氏が、物部氏を滅ぼして、政治を動かすようになりました。



4世紀ごろの朝鮮半島

#### 南北朝

5世紀以降、隋によって統一されるまで、中国は大きく南北に分かれ、さまざまな王朝が成立し、滅びました。このころを、南北朝時代といいます。

鉄剣  
（埼玉県の  
稲荷山古墳）

鉄刀（部分）  
（熊本県の  
江田船山古墳）



ワカタケル大王の文字が刻まれた鉄剣と鉄刀

(6) 推古天皇らの政治

推古天皇は、593年、聖徳太子（厩戸皇子）を摂政とし、大臣の蘇我馬子の協力のもとに、大王を中心とした政治をめざして、政治の改革をすすめました。

推古天皇のころからの約100年間は、飛鳥地方（奈良盆地南部）に朝廷がおかれたことから、飛鳥時代ともよばれています。

仏教の広まりと飛鳥文化

推古天皇のころ、豪族の勢力を示すものが古墳から寺院にかわっていきました。このころ、日本で最初の仏教文化である飛鳥文化が栄えました。

- 冠位十二階（603年）……朝廷の役人の位を決め、才能のある人を役人にとりたてる道を開きました。
- 憲法十七条（604年）……朝廷の役人たちに、政治を行うときの心がまえを示しました。
- 仏教のすすめ……豪族たちに、仏教をすすめました。聖徳太子は、四天王寺（大阪府）や法隆寺（奈良県）を建立したといわれています。

- 遣隋使の派遣……中国のすんだ制度や文化をとり入れるため、607年に小野妹子を隋につかわしました。この遣隋使は、隋との対等の外交をめざすものでした。このときの留学生や留学僧によってもたらされた新しい知識は、その後の政治にかかれていきました。

(7) 大化の改新

① 大化の改新のはじまり……聖徳太子の死後、蘇我氏の勢力は大王をしのぐほどになりました。そこで、645（大化元）年、中大兄皇子（後の天智天皇）や中臣鎌足（後の藤原鎌足）らは、蘇我蝦夷・入鹿父子を滅ぼし、大王中心の強い国をつくろうと、政治の改革にとりかかりました。この改革を大化の改新といいます。

② 新しい土地制度……大化の改新の前には、大王や豪族が、土地と人民を直接支配していました。

646年に改新の詔（天皇の命令）が出され、土地制度などの政治の方針が示されました。

改新の詔による土地制度の方針

- これまで大王や豪族が支配していた土地と人民は、公地公民とされ、国家が直接支配する。
- 戸籍をつくって、人民に田を分けあたえる。

(8) 白村江の戦い

7世紀、唐と結んだ新羅がまず百済を、次いで高句麗を滅ぼし、676年に朝鮮半島を統一しました。これより前、百済が新羅に滅ぼされると、日本は百済をたすけるために大軍を送りましたが、663年、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れました。

この後、中大兄皇子は都を飛鳥（奈良県）から大津（滋賀県）に移し、天智天皇として即位しました。天智天皇は、初めて全国的な戸籍をつくり、改新の政治をすすめました。

遣唐使

630年、第一回遣唐使として犬上御田鍬が派遣されてから、菅原道真の意見によって894年に停止されるまで、遣唐使が約260年の間に十数回送られました。

ただし、遣唐使が停止された後も、日本と中国の間で、民間の交流は活発に続けられ、日本は引き続き中国の文化などの影響を受けました。



### (9) 壬申の乱

天智天皇が亡くなると、後つぎをめぐって、672年、天智天皇の弟（大海人皇子）と子どもの中で**壬申の乱**が起こりました。この戦いには大海人皇子が勝利して**天武天皇**となりました。天武天皇は、都を飛鳥にもどしました。

**大王から天皇へ**  
大王が正式に天皇とよばれるようになったのは、7世紀後半の天武天皇のころからと考えられています。

### (10) 藤原京の建設

天武天皇の皇后であった**持統天皇**は、694年、都を藤原京に移しました。現在の奈良盆地南部につくられた藤原京は、日本で最初の、計画的につくられた本格的な都でした。

**班田収授の法**  
律令によると、土地制度は公地公民が原則で、**班田収授の法**によって定められていました。  
・朝廷は、6年ごとに**戸籍**をつくる。  
・戸籍にもとづいて、6歳以上の男子には2段（約23a）、女子にはその3分の2の**口分田**を割りあてる。  
・口分田は、死ぬと国に返させる。

### (11) 律令政治の確立

- ① 大宝律令の制定……政治のしくみは、701（大宝元）年の**大宝律令**の制定によって、ほぼ整えられました。
- ② 中央と地方の政治……天皇のもとに二官八省がおかれ、**太政官**が決めた政策にもとづいて、それぞれの省が実際に政治を行いました。

地方は**国・郡・里**に分けられ、それぞれに**国司・郡司・里長**がおかれました。国司は都から派遣された貴族で、郡司にはその地方の豪族が、里長には有力な農民が任命されました。

唐の制度をもとにした律令は、その後長い間、朝廷の政治のよりどころとなりました。律令政治は、中央や地方の豪族が天皇に仕える役人となってすすめられました。その中で、特に中央の上級の役人が、**貴族**とよばれるようになりました。



区画された土地（奈良県）

### (12) 律令のもとでの農民の負担

律令のもとで、農民には重い負担が課せられました。農民の生活は苦しく、**口分田**からの収穫だけでは、くらしをたてることができませんでした。

口分田を支給しやすいように、耕地は四角く区画されました。このような制度を**条里制**といいます。上の写真では、この区画のなごりが見られます。

|  |  |
|--|--|
| <p><b>農民のおもな負担</b></p> <p>〈税〉</p> <p><b>租</b> 口分田にかかる税。収穫の約3%の稲を地方の役所に納める。女子も負担する。</p> <p><b>調</b> 地方の特産物を都に納める。</p> <p><b>庸</b> 都で10日間働く代わりに、布を都に納める。</p> | <p>〈労役〉</p> <p><b>雑徭</b> 国司のもとで、一年に60日以内の労働をする。</p> <p>〈兵役〉</p> <p><b>兵士</b> 成年の男子約三人につき一人を兵士とする。</p> <p><b>衛士</b> 兵士から選ばれ、一年間都の守りにつく。</p> <p><b>防人</b> 兵士から選ばれ、三年間九州の守りにつく。</p> |
|--|--|

## 4 奈良時代……天皇による政治

### (1) 平城京

710年、元明天皇は、唐の都長安にならって、奈良に平城京をつくり、都を移しました。平城京は、東西が約6km、南北が約5kmある、計画都市でした。北部の中央には皇居（天皇の住まい）や役所などがおかれしました。

平城京には全国各地から調や庸が運ばれてきました。都に納められたこれらの税には、木簡とよばれる木の札が、荷札としてつけられていました。

### (2) 聖武天皇の政治

聖武天皇は、仏教の力によって社会の不安をしずめようとし、国ごとに国分寺を、都の東大寺には大仏をつくらせました。

唐の高僧鑑真は苦難の末に来日し、僧が守るべききまりである戒律を受けました。日本の仏教の制度を整え、唐招提寺を開きました。

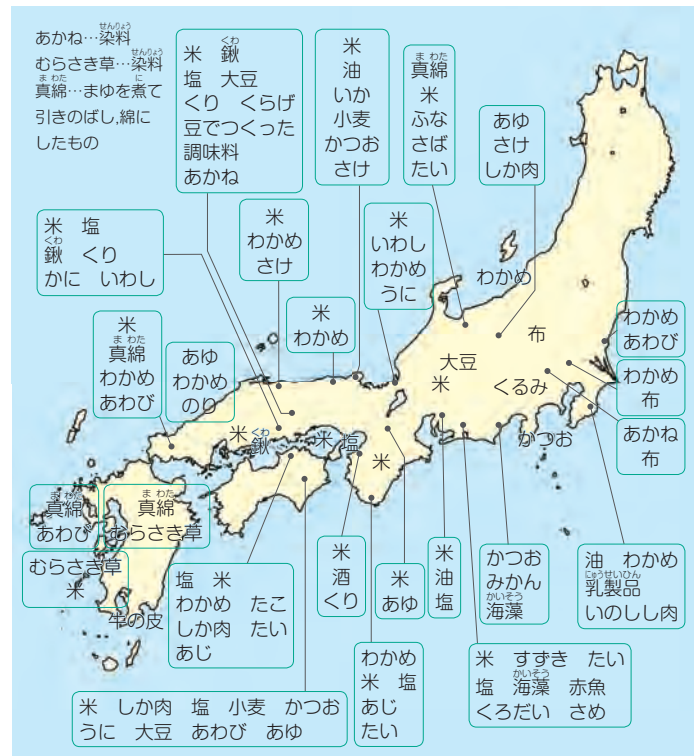
しかし一方では、政治と仏教の結びつきが強まり、後には、道鏡のように政治に口出しする僧もあらわれて、政治が乱れていきました。

### (3) 新しい土地政策

① 口分田の不足……農民の中には、負担にたえかねて口分田をすて、ほかの土地に逃げる者もいました。すてられた口分田が荒れる一方で、人口が増加して、口分田が足りなくなってきました。

② 新しい法律と荘園の発生……723年に三世一身の法が出され、開墾した土地の私有が期限つきで認められました。しかし、期限つきのこの法令はあまり効果をあげなかったため、743年に墾田永年私財法が出され、開墾した土地（墾田）を永久に私有することを許しました。

その結果、経済力のある貴族や寺院、地方の豪族などは、農民などを使ってさかんに開墾を行い、後に荘園とよばれるようになる私有地を増やしていきました。



各地から平城京に運ばれてきたおもな調

平城京に伝えられた世界の文化  
 聖武天皇のころには、貴族中心の仏教文化である天平文化が栄えました。この文化は、唐との交流を通じて、遠く西アジアやインドの文化の影響も受けています。校倉造で知られる東大寺の正倉院には、聖武天皇の遺品などが収められてきました。



莊園の図  
 紀伊国（和歌山県）の荘園です。9世紀に開発され、12世紀に京都の寺に寄進されました。●が荘園の境界を示しています。



# 5

## 平安時代……貴族の政治

### (1) 平安京と律令政治の立て直し

① 平安京への遷都……桓武天皇は、仏教勢力を政治から切り離して、律令政治を立て直そうとしました。寺院を奈良に残したまま、784年に長岡京（京都府）に都を移しましたが、都づくりがうまくすすまなかったため、794年に平安京（京都市）に移しました。

平安京は、都が東京に移されるまでの約1100年間、日本の都でした。

② 桓武天皇の政治……桓武天皇は、地方の政治をひきしめるため、国司をきびしく監督しました。また、朝廷の支配に抵抗する蝦夷をおさえるため、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命して東北地方に派遣し、蝦夷をおさえました。

しかし、平安京の建設や蝦夷との戦いは、国や人々にとって大きな負担となり、この二大事業は中断されました。



蝦夷の指導者・アテルイをたたえる碑  
アテルイは、朝廷の軍に根強く抵抗しました。この碑は、坂上田村麻呂が建立したとされる京都の清水寺にあります。

### (2) 摂関政治

律令政治の立て直しにかかわって、勢力を強めたのが藤原氏でした。策略を用いて有力な貴族を退けながら、娘を天皇の后とし、生まれた子を天皇にたてて、勢力を拡大したのです。

9世紀に藤原良房が摂政に、その子基経が関白になったのが、摂関政治のはじまりです。11世紀前半の藤原道長とその子頼通のころが、摂関政治の全盛期でした。朝廷の重要な役職は藤原氏が独占し、国司からの贈り物や多くの荘園からの収入によって、藤原氏は栄えました。

その一方、国司に任せきりにされた地方の政治は、一層乱れていきました。



貴族のくらし

藤原頼通が、天皇と皇太子をもてなすようすを描いた絵です。

### (3) 武士のおこり

政治が乱れてくると、各地で犯罪や土地をめぐる争いが増えたため、朝廷は、武芸にすぐれた地方の豪族たちに、犯罪の取りしまりや反乱の平定を命じました。都では、朝廷の武人に貴族の屋敷などの警備を行わせました。これらが、武士のおこりと考えられています。



貴族の護衛をする武士



(4) 武士の成長

① 源氏と平氏……武士は、武士団をつくるようになりました。武士団の中で有力になったのは、平氏（桓武天皇の子孫）と源氏（清和天皇の子孫）でした。

② 平将門の乱と藤原純友の乱……935年、下総国（千葉県・茨城県の一部）の豪族であった平将門が、関東で反乱を起こしました。939年には、伊予国（愛媛県）の役人であった藤原純友が、瀬戸内海の内海を率いて、西国を荒らし回りました。

これらの反乱は、地方の武士の力をかりなければ、しずめることができませんでした。このため、都の貴族たちは、武士の実力を認めるようになりました。

ぜんくねん えき  
前九年の役と  
ごさんねん えき  
後三年の役  
(ぜんくねんかっせん  
ごさんねんかっせん)  
後三年合戦

11世紀後半に東北地方で起こった豪族たちの争い。東国の武士を率いた源義家らによってしずめられ、源氏の勢力が東国に広まりました。

(5) 院政

1086年、白河天皇は、8歳の皇子に位をゆずって上皇となった後も、院（上皇の屋敷）で政治を行いました。このようにして院政が始まると、藤原氏は急速におとろえていきました。

(6) 平氏の政治

院政が始まると、上皇と天皇が対立するようになりました。これに藤原氏内部の争いが結びついて、1156（保元元年）年、保元の乱が起きました。このとき天皇方で勝利した平清盛と源義朝が対立するようになり、1159（平治元年）年に平治の乱が起きました。この戦いに勝利して政治の実権をにぎった平清盛は武士として最初の太政大臣になり、娘を天皇の后にして、勢力をふるいました。平氏一族は、朝廷の重要な役職をほぼ独占するとともに、多くの荘園をもち、富をたくわえました。



平治の乱

(7) 日宋貿易

平氏は、宋との貿易（日宋貿易）でも大きな利益をあげました。平清盛は、大輪田泊（現在の神戸港の一部）を整備し、瀬戸内海の航路を整えました。また、航海の守り神として、厳島神社（広島県）をあつく信仰しました。

10世紀の中国と朝鮮半島

① 中国……907年に唐が滅亡しました。分裂した状態が続いた後、979年に、宋が中国を統一しました。

② 朝鮮半島……936年、新羅に代わって高麗が朝鮮半島を統一しました。

(8) 平氏の滅亡

1180年、平清盛によって伊豆に流されていた源頼朝（源義朝の息子）が平氏打倒の兵をあげ、各地で平氏の軍を破りました。1185年、壇ノ浦の戦い（山口県）で、頼朝の弟の源義経によって、平氏は滅ぼされました。

〈日本の輸出品〉  
金・硫黄・刀剣・漆器 など

〈日本の輸入品〉  
銅銭（宋銭）・陶磁器・薬品 など

日宋貿易のおもな輸出入品

# 練習問題



1 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

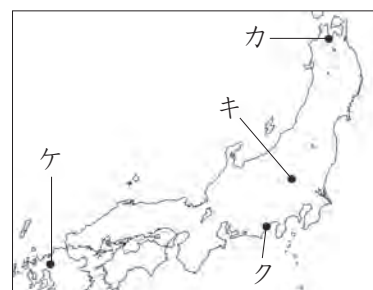
- 1 日本列島は大陸と陸続きでした。人々は洞くつなどに住み、狩りなどをしながら移住していました。狩りには、①黒曜石などの打製石器を使っていました。
- 2 人々は台地の上などに **A** 住居をつくって定住し、②村をいとなんでいました。縄目のもよみなどの特色がある土器をつくり、食物を煮炊きしていました。
- 3 人々は協力して③米づくりを行い、収穫した稲は高床倉庫にたくわえました。うすくてかたい土器や④金属器も使われました。次第に有力な村がまわりの村を従え、⑤国がつくられました。
- 4 大和地方の豪族が **B** を中心にまとまり、⑥ヤマト政権をつくりました。豪族たちは墓として⑦古墳をつくっていました。また、⑧中国や朝鮮半島から日本に来た人々は、さまざまな技術をもたらしました。

問1 **A** にあてはまることばを答えなさい。

問2 **B** は、後に天皇とよばれるようになりました。**B** にあてはまることばを答えなさい。

問3 下線①が発見され、日本に旧石器時代があったことが明らかになった遺跡を次から選んで、記号で答えなさい。また、その位置を右の地図から選んで、記号で答えなさい。

- ア 吉野ヶ里遺跡      イ 登呂遺跡      ウ 三内丸山遺跡      エ 岩宿遺跡



問4 下線②について、村の近くで貝がらやこわれた道具などがすてられたところを何といいますか。

問5 下線③について述べた文として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 田げたをはいて田植えをしました。      イ 石包丁で稲の穂をつみ取って収穫しました。  
ウ 脱穀にはすきやくわを使いました。      エ 沖縄では稲作は行われていませんでした。

問6 下線④について、銅鐸はおもにどのような道具として利用されましたか。次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 農具      イ 工具      ウ 武器      エ 祭器

問7 下線⑤について、このような国の一つに奴国がありました。奴国の王に金印を授けた中国の王朝の名を漢字1字で答えなさい。

問8 下線⑥が5世紀後半に支配していた地域として正しいものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 近畿地方から東北地方の北部      イ 九州の中部から関東地方  
ウ 東北地方の南部から北海道地方      エ 九州の南部から近畿地方

問9 下線⑦について、堺市にある日本最大級の古墳を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 稲荷山古墳      イ 大仙古墳      ウ 高松塚古墳      エ 五色塚古墳

問10 下線⑧について、中国や朝鮮半島から日本にわたってきた人々を何といいますか。



2 奈良時代の歴史上の人物が自分のことを語った次の文をよく読んで、後の問いに答えなさい。

- ㊸ わたしの父は、<sup>なかのおおえのおうじ</sup>①中大兄皇子と協力して大化の改新に取り組みました。そのことを認められ、父は死の間に<sup>ふじわら せい</sup>藤原の姓をたまわりました。701年に定められた<sup>りつりょう</sup> [A] 律令によって、<sup>なかのおおえのおう</sup>中大兄皇子やわたしの父がめざした<sup>むすめ てんのう きさき</sup>②政治のしくみが完成しました。また、娘たちを天皇の后にして、一族の繁栄の<sup>はんえい きそ</sup>基礎をきずきました。
- ㊹ わたしは、<sup>でんせんびょう</sup>伝染病やききん、<sup>こうぞく きぞく</sup>皇族や貴族の争いなどをしずめるため、全国の [B] 寺の中心となる東大寺に大仏をつくることを命じました。<sup>みんしゅう</sup>民衆からしたわれていた<sup>きょうき</sup>行基という僧にも協力させて、この大事業をなすとげました。しかし、<sup>ふたん</sup>工事の負担などで、<sup>みんしゅう</sup>かえって民衆を苦しめてしまうことになりました。わたしの<sup>いひん</sup>遺品は、東大寺にある<sup>しょうそういん おさ</sup>③正倉院に収められています。
- ㊺ わたしは日本の<sup>そう</sup>僧の制度を整えるため、<sup>くなん</sup>六度目の試みで④苦難の航海をへて、ようやく日本にたどりつくことができました。仏教のほかにも、<sup>ちやうこく</sup>彫刻技術や<sup>くさく</sup>薬草の知識などを伝え、<sup>なら</sup>⑤奈良の都に⑥大きな寺を開きました。
- ㊻ わたしは中国で学んだ後、<sup>ふたん ろうえき</sup>国司を務めました。当時の農民は重い税の負担や<sup>へいえき</sup>労役、⑦兵役に苦しめられていました。そんな人々の苦しみの声をうたったわたしの歌は、「<sup>ひんきやうもんどう か</sup>貧窮問答歌」として、『<sup>まんようしゅう おさ</sup>万葉集』に収められています。

問1 [A]・[B]にあてはまることばを答えなさい。

問2 下線①は、後に<sup>てんのう きくい</sup>天皇に即位しました。何という<sup>てんのう</sup>天皇になりましたか。また、<sup>てんのう きくい</sup>天皇に即位するより前に起きた戦いを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア <sup>ぶんえい えき</sup>文永の役      イ <sup>おうにん らん</sup>応仁の乱      ウ <sup>いちの たに</sup>一ノ谷の戦い      エ <sup>はくせんこう</sup>白村江の戦い  
はくせんこう

問3 下線②について、この政治のしくみについて述べた文として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア <sup>てんのう</sup>天皇のもとに二官八省がおかれ、<sup>はつ</sup>八つの省が実際に政治を行いました。
- イ 地方におかれた<sup>はけん</sup>国司・郡司・里長にはそれぞれ、都から派遣された役人が任命されました。
- ウ 大陸からの<sup>げんかんぐち</sup>玄関口となる九州には<sup>だいざいふ</sup>大宰府がおかれ、九州の政治・外交・防衛を行いました。
- エ <sup>ほんでんしやうじゆ</sup>班田収授の法によって、<sup>さい</sup>6歳以上の男女に<sup>さい</sup>口分田が支給され、死ぬと国に返させました。

問4 下線③に用いられた、断面が三角形の木材を組んで建物をつくる建築様式を何といいますか。

問5 下線④について、当時の中国と日本を結ぶ航路は、初めは<sup>ちやうせん</sup>朝鮮半島の西岸沿いに移動する安全な北路がとられていました。しかし、8世紀に [C] との関係が悪化すると、<sup>き</sup>東シナ海を横断する危険な南路にかわりました。[C] にあてはまる国を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア <sup>へんてい</sup>百済      イ <sup>こうぐり</sup>高句麗      ウ <sup>しんら</sup>新羅      エ <sup>こうり</sup>高麗  
くた      こうぐり      しんら      こうり

問6 下線⑤の名を漢字で答えなさい。

問7 下線⑥について、この寺を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア <sup>とうしやうだいじ</sup>唐招提寺      イ <sup>えんりやくじ</sup>延暦寺      ウ <sup>ほうりやうじ</sup>法隆寺      エ <sup>こうりやうじ</sup>広隆寺

問8 下線⑦について、兵士から選ばれ、三年間九州の守りにつく<sup>へいえき</sup>兵役を何といいますか。

問9 ㊸・㊹の人物をそれぞれ次から選んで、記号で答えなさい。

- ア <sup>やまのうえのおくら</sup>山上憶良      イ <sup>しやうむ てんのう</sup>聖武天皇      ウ <sup>ひみこ</sup>卑弥呼      エ <sup>いぬがみのみ たすき</sup>犬上御田鍬      オ <sup>がんじん</sup>鑑真

3 平安時代の戦乱に関する次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

I

[A] は、一族と争いをくり返して、何度か朝廷に訴えられました。かつて仕えたことのある太政大臣の①藤原忠平に無罪を訴えるなどして許されましたが、伯父たちと対立が続きしました。②常陸国の役所を襲って以後、「新皇」を名のり、関東地方の大半を支配しました。③やがて朝廷の大軍に敗れましたが、死後、[A] は東京の神田明神などにまつられ、今も多くの人が訪れています。

問1 [A] にあてはまる人物の名を漢字で答えなさい。

問2 下線①の兄の藤原時平は、ある人物を九州へ追放したことで知られています。この人物の名を答えなさい。また、この人物と関係の深いことを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 遣唐使の停止                      イ 平等院鳳凰堂の建立  
ウ 朝鮮との国交回復                エ 守護・地頭の設置

問3 下線②は、現在のどの県にあたりますか。次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 群馬県                      イ 神奈川県                      ウ 茨城県                      エ 栃木県

問4 下線③に最も近い時期のできごとを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 桶狭間の戦い                      イ 正長の土一揆  
ウ 藤原純友の乱                      エ 後三年の役

II

兄の上皇と弟の天皇が朝廷の実権をめぐる対立し、④摂関家や武士団が上皇方と天皇方に分かれて、保元の乱が起きました。天皇方について[B] は、上皇方について叔父を自らの手で処刑しました。さらに、保元の乱のときにはともに天皇方として戦った源義朝を、⑤三年後の戦乱で破りました。その後、[B] は武士として初めての太政大臣となり、⑥一族の繁栄をもたらしました。

問5 [B] にあてはまる人物の名を漢字で答えなさい。

問6 下線④について、9世紀から11世紀にかけて、摂政・関白の地位を独占して繁栄した一族がありました。この一族の全盛期をきずいた人物と関係の深い史料を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア なれや知る 都は野辺の 夕ひばり あがるを見ても 落つる涙は  
イ 田子の浦ゆ うち出でてみれば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける  
ウ あをによし 奈良の都は 咲く花の におふがごとく 今さかりなり  
エ この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば

問7 下線⑤の戦乱の名を答えなさい。

問8 下線⑥について、この一族は中国との貿易によっても大きな富を得ました。当時の中国の王朝の名を漢字で答えなさい。また、この貿易をさかんにするために整えた港の当時の名を答えなさい。さらに、この貿易で日本に多く輸入されたものを次から2つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 陶磁器                      イ 銅銭                      ウ 刀剣                      エ 硫黄